

第2回鳥取市スケートリンク検討委員会 会議概要録

平成24年12月13日（木）午後1時30分～3時30分
市役所駅南庁舎地階第2会議室

出席：委員：岩本委員、木嶋委員、小山委員、坂出委員、高井委員
林田委員、藤野委員、本名委員（50音順）
教育委員会：浅井課長、坂本係長、清水主任
欠席：川口委員

1 開会

事務局：本日は第2回鳥取市スケートリンク検討委員会ということでお集まりいただきました。

私は体育課長の浅井です。開会および進行を担当させていただきます。

本日は9名の委員のうち副委員長であります川口専務（鳥取市体育協会）が1名欠席ということで8名のご出席をいただいております。委員会が成立するというところをはじめにご報告させていただきます。

開会にあたりまして、7月6日に第1回を開催し第2回を8月中に開催させていただく予定でしたが前回の第1回の中で他の市町村のスケートリンクや資料の収集ということで、事務局のほうで情報の収集を行いました。ところが、複合施設や民間の施設が多くあり、事務局が作成した調査票を早急に記入することは難しいということで、資料の収集に時間がかかってしまい12月の開催になってしまいました。事務局より第2回の開催が遅れたことをお詫びいたします。

簡単に経過を説明させていただき、早速検討委員会にはらせていただきます。

本委員会委員長の本名委員長よりご挨拶をいただきます。

2 あいさつ

委員長：みなさんこんにちは。しばらく間が空きましたが、その間事務局の方に色々と調査していただき、その調査に基づき実際の建設にあたる経費の問題等について、さまざまな検討をしていきなしたと思います。実質的には今日が初めての検討になるかと思っております。いろんなご意見をいただきながらまとめられればと思います。宜しくお願いします。

それでは次第3の他自治体のスケートリンク状況調査の結果について事務局より説明いただき、配布資料についても確認をお願いします。

3 説明事項

(1) 他自治体のスケートリンク状況調査の結果について

※事務局が資料1によりプロジェクターで説明

《質疑応答》

委員長：なんでも結構ですのでご質問等があれば宜しくお願いします。

坂出委員：湖遊館がプールにできなかった理由を教えて欲しい。天井が高いとプールができないのか？

事務局：元々天井が高い設計であり、仮にそこをプールの形で掘ったとすれば、かなりの空間があるため、空間を冷やすのにかなりのランニングコストがかかる。設計の段階でプールを諦めてアリーナにしようということであったと職員の方から聞いた。

藤野委員：湖遊館は元々地盤が悪く、今現在も床に段差ができたりしており、補修を行っている。そのためプールにしにくかったのではないかと。維持管理が大変になる。

今でも床の補修で何千万円もかかっている。

岩本委員：地盤が悪く、熱効率も悪い。湖遊館は通年型のアイススケートリンクをということで申請をしている。岡山のほうにも視察に行かれたりしている。現在の湖遊館のリンクは天井が高く、光熱費がかかり、地盤が良くないということで使い勝手が悪く熱効率がかかるという状況である。

事務局：湖遊館の建設費用の主体は県と旧平田市で、運営は指定管理者のNPO法人平田スポーツ文化振興機構がおこなっており、市町村合併の時にできた法人である。

小山委員：切替費用が非常にかかるということが分かり、1千万もかかるということが分かった。一般の方が使うには割高になってしまうのではないかと？

事務局：プール自体も50mの温水プールということで、水温を維持していく熱交換システムやろ過機の維持費がかかり、設備や器械の老朽化等も考えると長期的に考えると維持費等が結構な金額になる。プールの運営をしているところによると、スケートリンクの運営費よりプールの運営費の方がかなりかかるということであった。

岩本委員：ビックウェーブとアクアアリーナはオリンピックもできるような素晴らしい施設だが、それが鳥取に必要なかどうかと考えたときに、非常に厳しいものがあるのではないかと？

坂出委員：切替費用は資料の維持管理費のところに入っていると考えていいのか？

事務局：含まれていると考えていただいてもいい。

坂出委員：切替型でなく夏場を休止している施設はあるのか？

事務局：倉敷市のヘルスピアは休止している。もともと同じ敷地内に屋外プールがあったり宿泊施設があり、一度廃止している施設だが、アイススケートリンクだけは存続している。現状は夏場を休止し、冬場だけ運営をしている形態となっているが、もともとは複合施設。建設費用は分からないという回答であった。

委員長：1ページの詳細資料の説明をして欲しい。

事務局：サンヴィレッジハマダ以外は60M×30Mの国際基準のリンクになっている。

サブリンクについては、サンヴィレッジハマダ、ヘルスピア以外のところは設けている。

どの施設も身体障害者用のトイレや点字などバリアフリーかとなっている。

運営期間は主に9月下旬から5月頃で、営業時間は概ね10時から19時である。

運営体制は3名から10名程度である。

カーリングのリンクは通常のフィギュアのリンクより硬めにしなければいけないため、同じリンクでフィギュアとカーリングを一緒に運営することはできない。

ビックウェーブ以外は一年を通して教室を行っている。

利用料金は関西方面が少し高めに設定されているように思う。

事務局：民間企業から無理を言って資料の提供をいただいているため、委員の皆様には慎重に取り扱いをしていただきたい。

事務局：通年型の施設について。浪花スケート場は複合施設であり、プールとフィットネスジム、バスケットが2面ぐらい取れる体育館がある。守口スポーツプラザは複合施設かどうか分からない。

委員長：複合施設が多いが、苦勞されているところがある。スケートリンクがメインなのかプールがメインなのかが分からない。

木嶋委員：収入と経費は書いてあるが、赤字黒字の計算はどのようにされているのか？

事務局：運営経費の分析はしていない。純粋にスケートだけの収入と維持管理費だけでまかなえているだけではなく、これ以外に指定管理料や自治体から出ている。

委員長：収入のところスケートリンク維持管理の方で上がってきているのはスケートリンクの経費だけではなく、複合施設全体の経費であるかもしれないという解釈で良いか？整理した上で調査をしたのか？

事務局：複合施設であればスケートリンクだけの経費を記入してくださいということで依頼をしたが、回答はスケートリンク単体だけでは算出していないであるとか、湖遊館についてはスケートリンク

も維持管理費に含まれているという回答であった。再度精査しなければ純粋なスケートリンクだけの収入なのか維持管理費なのか分からないため、精査させていただきたい。

坂出委員：資料を見ると通年型のリンクは黒字のような気がするが？

事務局：関西圏はかなりの利用者がある。

坂出委員：運営主体と設置主体の関係についてどのようになっているのか？

事務局：役所の場合は減価償却を考えてないが、本来であれば減価償却を考えて費用を考えていかなければならない。

坂出委員：収入が出た場合どちらが得るのか？

事務局：通常の指定管理者であれば、収入は指定管理者の方に入る。

坂出委員：指定管理者は建物を借りて運営だけすればいいということであるのか？指定管理のための費用もあるという認識でよいのか？

事務局：指定管理の場合は市が直営するより、民間に運営していただいたほうが人件費や運営経費のコストが低く済む。市が上限額を設定した中で、サービスの内容、年間でかかる運営費用を出してもらい、サービス面と金額の両方で優れている団体に指定管理を任せているという現状。市や民間どちらが運営しても赤字になることが前提である。

しかし、減価償却の部分は考えないが、まれに指定管理料が0円で全てをやるという民間もあり、設備の更新や修繕も指定管理の収益を使ってやっているという例もある。

委員長：これが現状であり、鳥取近辺の近畿地方、中国地方で現在スケートリンクがあるところで回答をいただいた分である。

続いて(2)の他自治体のスケートリンク建設状況と建設中のものも含めて説明願ひ、質問等を受けていく。

(2) 他自治体のスケートリンク建設状況について

※事務局が資料2によりプロジェクターで説明

《質疑応答》

委員長：ご説明ありがとうございました。今の説明にご質問はありますか？

坂出委員：確認だが、どちらも通年営業と考えてよいのか？

事務局：通年営業である。

委員長：ソーラーをつけたらどれぐらいの経費になるのか？

事務局：不明であるため、精査する必要がある。しかし、ソーラーは重みがあるため、構造をきちんとしなければならない。

坂出委員：新潟と西宮市のソーラーは建設費に含まれているのか？

事務局：新潟、西宮市どちらもソーラーの金額が含まれている。

岩本委員：DBO方式合併特例債を使うことは可能なのか？

事務局：新潟市は合併特例債を使用した鳥取市は片原駐車場が唯一DBO方式で作られたものである。鳥取はDBO方式が使えるか分からない。

岩本委員：ソーラーを付けるのと付けないのでは2億円ぐらい違うのか？

事務局：2億円まではいかないと思う。

岩本委員：ソーラーは絶対付けるべきだと思う。そうすれば通年の維持管理費用が抑えられるのではないかと思う。

木嶋委員：地下へ建設すべきではないか？大阪中央体育館は地下にある。地下につくれば強度的にも強いものができるのではないか？

藤野委員：頑強なコンクリートを使ったり、建設コストがかかるのではないか？

事務局：分かる範囲で確認する。

木嶋委員：岡山に気圧を変えられる地下のスポーツ施設がある。

坂出委員：具体的な場所の検討が決まってから、建設費・維持管理経費の検討をしたほうがいいのではないかと。

委員長：今までの説明や意見を考えると、観客席とサブリンクはなしでメインリンクのみの建設が考えられるのでは？

事務局：少子高齢化ということで、高齢者が今後増えていく。それに伴い、鳥取市が進めているスポーツ振興においても生涯スポーツの位置付けとして進めていく必要があると考えている。

新潟市の建設の際に施設整備にどの程度費用がかかるかということで、中規模施設で整備が7億円で年間の維持管理費が5千万円となっている。

委員長：鳥取県や近隣の件を含めた人口の動態を見ていく必要がある。生涯スポーツの位置付けを考えると、どのような特徴を備え、どのような施設が必要なのか考えていかなければならない。

特定の人が利用する施設ではなく、多くの人が利用できる施設としなければならない。鳥取県にはスケートリンク場がないため、生涯スポーツを考える上でも困る部分である。

坂出委員：リッチランドの運営はどのようにやっていたのか？

林田委員：はじめは通年型ではなかった。まずは通年型にして競技人口を増やすということ考えた。次に施設のリニューアルを行い、ランニングコストや光熱費を下げる方法として、全面に断熱材を入れた。競技人口を増やすということで、合宿を誘致したり連盟と西日本を対象にするぐらいの合宿や大会を行った。開館時間を増やす取り組みも行った。スケートリンクと併用してボーリング場もあるため、ボーリングとスケートリンクのスタッフを兼任していた。

坂出委員：一般とセミプロのすみわけはどのようにやっているのか？

林田委員：競技選手に規制をかけた。特にお正月や春休み期間の練習は曜日や期間を指定し、一般利用と団体貸切のバランスをとっている。

岩本委員：夏に利用できたのは合宿をしたためで、他の施設が通年営業していないときに営業することによって、利用者を確保できるのではないかと。通年営業にしてもらわないと選手が育たないという連盟の要望をあげた。オールシーズンの方がメリットがある。

藤野委員：関西や鹿児島からもホッケーの合宿利用があった。

小山委員：一般利用者と競技者と整合性をもたせた方が底辺の拡大にもつながり、年齢に合わせたスケートの楽しみ方ができれば鳥取市の特徴になるのではないかと。

藤野委員：カーリングを普及させていきたい。

小山委員：熱中症対策として体育でスケートをやるのもいいのではないかと。夏に室内で楽しめるスポーツがあってもいいのではないかと。

藤野委員：学校授業でスケートができればいいと思う。

8月に岡山国際リンクで40～50人を対象とした合宿を行った。これは現地集合現地解散というかたちで現地までの費用は自己負担で行った。指導者は一流の講師を招いて行った。自己負担でも条件がよければ参加者は集まる。

委員長：幼児から高齢者、初心者から選手までと、色んな要素を含めて可能な形がよいと思う。また、施設建設費や維持管理費をほどほどで、建設場所も検討していかなければならない。

今後のスケジュールを事務局から説明いただき、次回までに事務局に調査いただきたい案件を委員の皆様にあげていただきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

※事務局がプロジェクターで説明

事務局：委員会が4ヶ月ずれ込んでいるため、6月が最終報告の期限となる。

今後は2月頃に調査事項等を踏まえた第3回検討委員会を開催していきたいと考えている。今後も継続して調査を行っていくが、あと1回で終了するのであれば、最終的な検討結果を取りまとめ、

4 月ごろに取りまとめの会議を設けていただきたいと思っている。その内容に合意いただければ、報告書案を取りまとめ、その後報告書案をご審議いただき、6 月に報告をするという流れで行っていく予定である。

【今後の調査項目】

- ・ 利用者の圏域見込み
- ・ 利用者数の見込み
- ・ ニーズ調査
- ・ ソーラーパネル付きの概算
- ・ 切替型施設の維持管理経費
- ・ 運営管理に関する部分
- ・ ソーラーパネルをつけた場合の金額をだしていただきたい（委員長）
- ・ 建設費がどれだけかかりどのように建設費を回収していくのかを新潟市や西宮市に聞いて、資料等があれば入手いただきたい（坂出委員）
- ・ 複合施設と単体施設のメリットとデメリットについてまとめていただきたい（坂出委員）
- ・ 通年型のメリットとデメリットについてまとめていただきたい（坂出委員）
- ・ 地下の建設コスト、ランニングコストについて

事務局：運営のノウハウは連盟の協力をお願いしたい。

4 その他

委員長：カーリングについては時間帯を区切り、手間をかければ可能である。専用のリンクを作らなくても手間をかければ可能となってくる。

岩本委員：千葉のリンク場は長い期間黒字経営で運営している。電気代は地熱を使っているためかからない。大きな大会を開催するには、スケート連盟が管理しないといけない。

5 閉会

事務局：調査がまとまり次第 2 月頃をめどに調整させていただく。2 月の開催までに追加項目があればご連絡をいただきたい。